

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

月報

平成 23年 4月 (第14 ~ 17週)

発行年月日: 平成23年(2011年)5月16日
 発行: 滋賀県衛生科学センター内
 滋賀県感染症情報センター
 電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類~五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一~四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は、保健所に届出ることになっています。
 このことを全数報告といいます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一~四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]		感染症 類型	疾 病 名	平成 23年		平成 22年 [†]				
		1~3月		4月				1~3月		4月				
		滋賀県	全国	滋賀県	全国			滋賀県	全国	滋賀県	全国	滋賀県		
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ベスト	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		
	結核	82	6,307	21	2,413	253	26,704	0	0	0	0	0		
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
三類	コレラ	0	1	0	0	0	10	0	0	0	0	2		
	細菌性赤痢	2	58	0	6	2	235	0	0	0	0	0		
	腸管出血性大腸菌感染症	0	180	0	57	66	4,131	0	0	0	0	0		
	腸チフス	0	2	0	0	0	32	0	0	0	0	0		
	バラチフス	0	8	0	2	1	21	0	0	0	0	0		
四類	E型肝炎	0	16	0	7	0	66	0	0	0	0	4		
	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	A型肝炎	0	94	0	14	3	346	0	0	0	0	0		
	エキノコックス症	0	8	0	1	0	17	0	0	0	0	0		
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オウム病	0	7	0	0	1	11	0	0	0	0	0		
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	回帰熱	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	Q熱	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	コクシジョイデス症	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0		
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
五類	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	チクングニア熱 ^(*)	0	3	0	0	-	-	0	0	0	0	0		
	つつが虫病	0	41	0	2	2	406	0	0	0	0	0		
	デング熱	1	28	0	5	2	245	0	0	0	0	0		
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

(*): 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 - : 未集計

*1 感染症発生動向調査暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成23年3月5日現在)

滋賀県における全数報告感染症の概要 (4月)

<結核> 21名

性別: 男性 13名、 女性 8名
 類型: 患者 19名
 無症状病原体保有者 2名
 病型: 肺結核 14名
 その他の結核 5名
 無症状病原体保有者 2名

<レジオネラ症> 女性 90歳

推定感染経路は水系感染で、推定感染地域は日本国内です。

<風しん> 男性 46歳

推定感染経路は接触感染で、推定感染地域は日本国内です。また、ワクチンの接種歴は2回とも不明です。

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といいます。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一ヵ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したもので(患者報告数 / 定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。

また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

4月の概要

<インフルエンザ>

第9週(2/28～3/6)に再び増加して以降、減少傾向となっていましたが、第16～17週(4/18～5/1)には2週連続して増加しました。特に、第17週(4/25～5/1)には、甲賀および長浜保健所管内の定点当たり患者数は注意報発生基準値(10.00)を超えていました。

<小児科定点疾患>

今月増加した疾患は、突発性発しんのみで、他の疾患では先月より減少していました(各疾患の週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

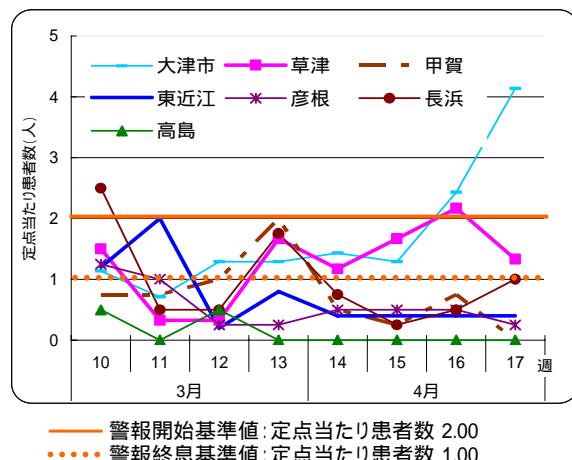
各疾患の保健所管内別発生状況では、水痘は高島、伝染性紅斑(リンゴ病)は大津市および草津、流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は彦根からの報告が多くなっていました。伝染性紅斑および流行性耳下腺炎の保健所管内別発生状況は、下記グラフに示すとあります。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月よりやや減少し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。基幹定点疾患では、細菌性髄膜炎は先月より微増となり、マイコプラズマ肺炎は先月よりかなり減少していました。無菌性髄膜炎およびクラミジア肺炎の報告はありませんでした。

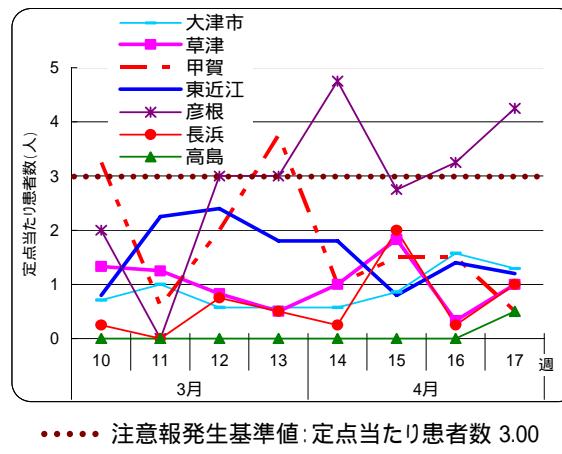
伝染性紅斑の保健所管内別発生状況

(平成23年第10～17週、H23.3.7～5.1)



流行性耳下腺炎の保健所管内別発生状況

(平成23年第10～17週、H23.3.7～5.1)



<各定点の対象疾患>

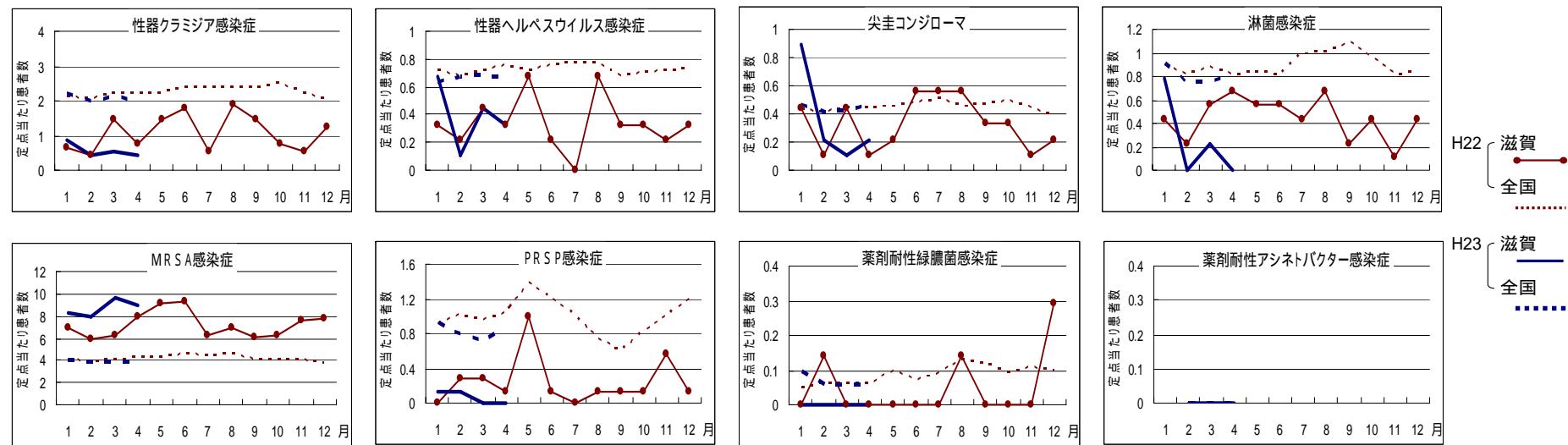
定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発しん、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

伝染性紅斑では、第10週に長浜保健所管内で、第16週に草津保健所管内で、第16～17週に大津市保健所管内で警報開始基準値を超えていました。また、流行性耳下腺炎では、甲賀で第10週および第13週に、彦根保健所管内で第12～14週および第16～17週に注意報発生基準値を超えていました。

3)性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成23年4月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	報告数	8	4	5	4									21
	定点当たり患者数	0.89	0.44	0.56	0.44									2.33
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	6	1	4	3									14
	定点当たり患者数	0.67	0.11	0.44	0.33									1.55
尖圭コンジローマ	報告数	8	2	1	2									13
	定点当たり患者数	0.89	0.22	0.11	0.22									1.44
淋菌感染症	報告数	7	0	2	0									9
	定点当たり患者数	0.78	0	0.22	0									1.00
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	報告数	58	56	68	63									245
	定点当たり患者数	8.29	8.00	9.71	9.00									35.00
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	報告数	1	1	0	0									2
	定点当たり患者数	0.14	0.14	0	0									0.28
薬剤耐性 緑膿菌感染症	報告数	0	0	0	0									0
	定点当たり患者数	0	0	0	0									0
薬剤耐性 アシнетバクター感染症 ^(*)	報告数	-	0	0	0									0
	定点当たり患者数	-	0	0	0									0

* : 感染症法の一部改正(平成23年2月1日施行)により、2月からの集計。 -は未集計。

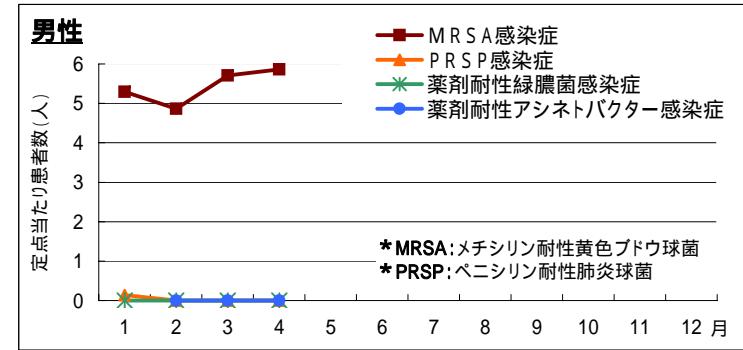
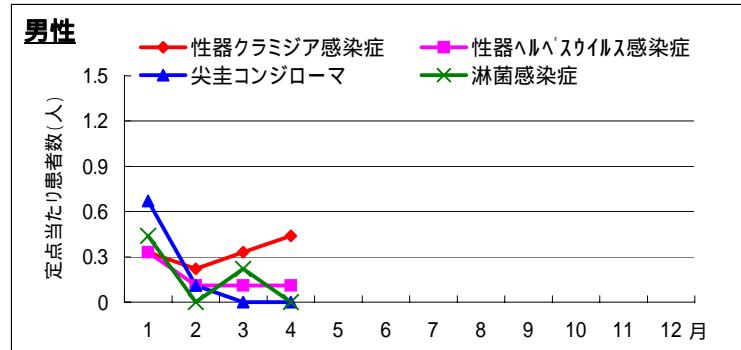


滋賀県における発生状況を先月と比較すると、増加した疾患は尖圭コンジローマで、減少した疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症およびMRSA感染症です。また、淋菌感染症、PRSP感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症および薬剤耐性アシネットバクター感染症は報告されていません。

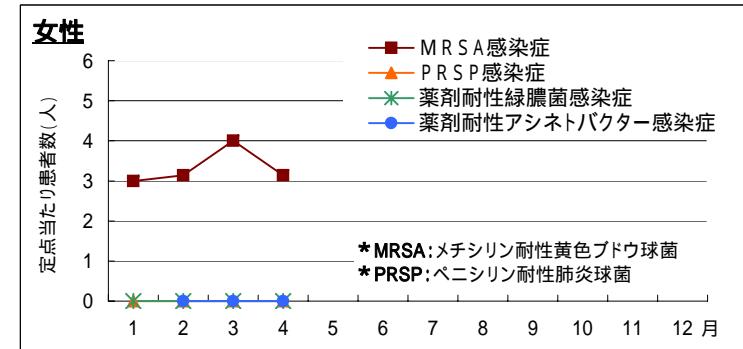
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

性感染症定点における疾患別発生状況 (H23.4)



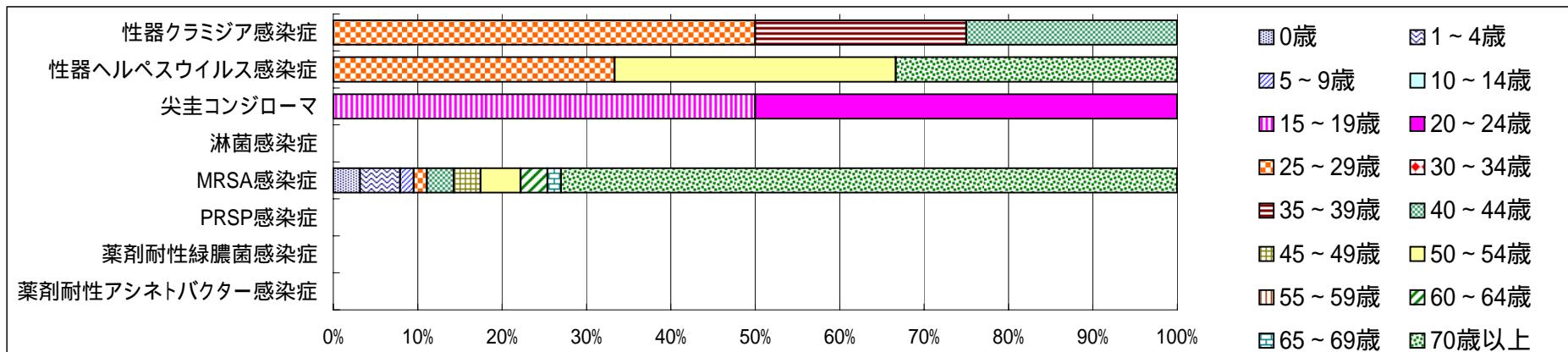
月	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症
1	0.58	0.32	0.22	0.32
2	0.18	0.02	0.02	0.12
3	0.02	0.32	0.12	0.02
4	0.02	0.22	0.22	0.02



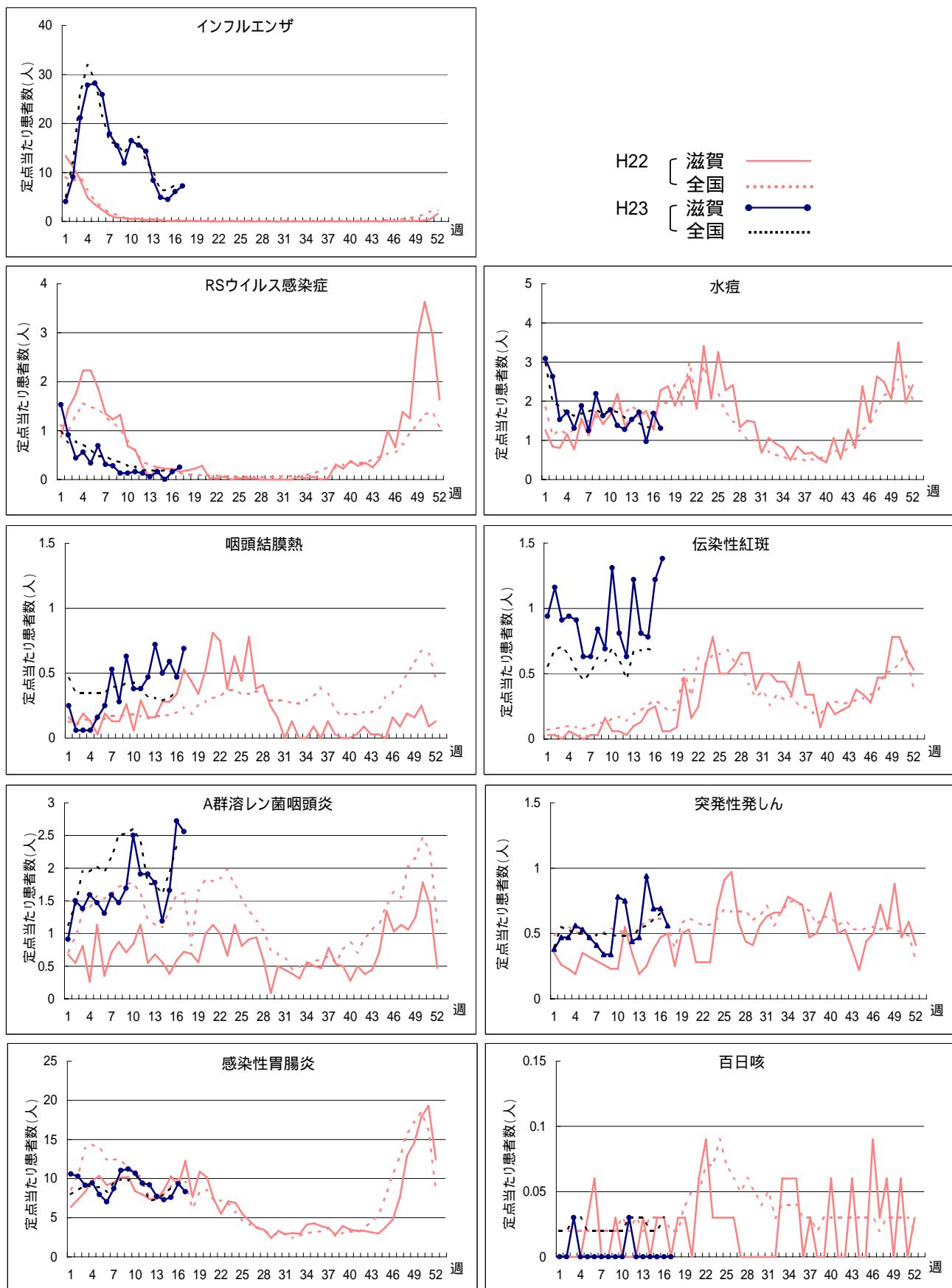
性感染症定点および基幹定点における各疾患の月別・性別発生状況は、左記グラフに示すとあります。性器クラミジア感染症は先月より男性で増加し、女性で減少しています。尖圭コンジローマは女性で先月より増加しています。淋菌感染症は男女ともに報告されていません。MRSA感染症は、男性で増加し、女性で減少しています。

また、各疾患の年齢別発生状況は、下記グラフのとおりです。尖圭コンジローマでは、女性で15～19歳の年齢群から報告されています。

疾患別・年齢別発生状況(H23.4)

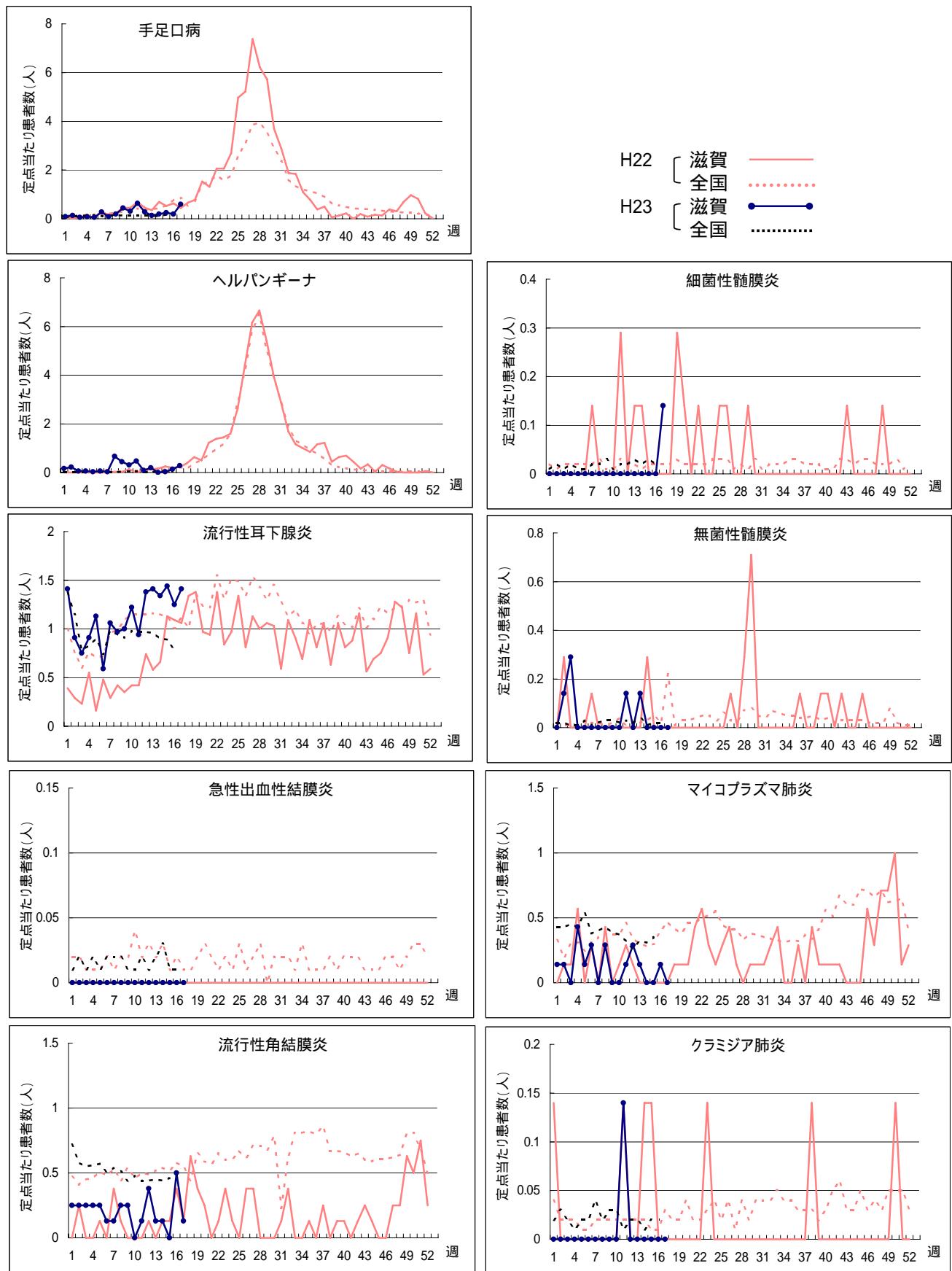


疾病別定点当たり患者数(平成23年第1~17週、H23.1.3~H23.5.1)



戻る

疾病別定点当たり患者数(平成23年第1～17週、H23.1.3～H23.5.1)



戻る